

## TruPhase の活用(6) —音源の位相確認(6)—

### 1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(5)に引き続き CD の位相確認を行います。

### 2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(5)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase  
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、[音源の位相チェック実験\(28\)](#)で使用したバッハのヴァイオリンの作品で下記のとおりです。

EXTON OVCL-00614                      結果:正相

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 2 番・無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番  
郷古廉

ユニバーサルミュージック UCCY-1049 結果:正相

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ全曲・無伴奏ヴァイオリンパルティータ全曲  
千住真理子

SONY Classical SRCR-2677              結果:正相

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番  
無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番  
前橋汀子

さらに以上に加えて下記を視聴しました。

BOSCO MUSIC VBC-8052              結果:正相

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番他  
柴田由貴

### 3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、

Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

郷古廉盤は、位相反転しますと、音像が大きくなりすぎ、定位が曖昧になります。

位相反転させないと、透明感あふれる切れ味の良い演奏であることが分ります。

千住真理子盤は、位相反転しますと、音像が大きくなりすぎ、定位が曖昧になります。位相反転させないと、ほとんど手の加わっていないというストラディヴァイウス・デュランティの、恐らくはガット弦の素朴で味わいのある音色の演奏が聴けます。演奏会ではイザイを聴いており、曲は違いますが、演奏会の記憶を呼び覚まします。

前橋汀子盤は、演奏会で聴いてきたものの CD ですが、位相反転しますと、音像が大きくなりすぎ、定位が曖昧になります。位相反転させないと、ガルネリの濃密な音色が、演奏会の記憶を呼び覚まします。

柴田由貴盤は、演奏会で聴いてきたものの CD ですが、位相反転しますと、音像が大きくなりすぎ、定位が曖昧になります。位相反転させないと、若手の無名の演奏家ながら、また楽器のクオリティは劣るものの真摯に演奏していることが分ります。

#### 4. まとめ

TruPhase での位相反転と Brooklyn DAC+での位相反転の結果は、音源の位相チェック実験(28)と同様の傾向になることが分りました。追加の柴田由貴盤は正相であることが分りました。

以上